



## 取り付け手順 2

**4-1 止水栓との接続（逆止弁付仕様、逆止弁無し仕様共、接続方法は同じです。）**

① ジョイントを止水栓に接続します。

【△注意】  
・接続は適切な工具（スパナ等）で締め付けてください。  
・締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。  
・締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水の原因となります。  
・薄肉の接続管（ニップル等）にはジョイントを接続しないでください。  
・パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。  
・止水栓がしっかりと固定されていることを確認してください。  
・固定されていないとブレードホースが抜け、漏水の原因となります。

② ブレードホースのつばとジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。

【△注意】  
・ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。（A図）  
・急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。  
・上下戻り配管はやめてください。（B図）  
・ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。  
・ブレードホース同士などへの不要な接触は避けてください。摩耗による外傷で、ホース性能の劣化の可能性があります。

【お願い】ブレードホースは切断しないでください。

③ クイックファスナーを、ブレードホースとジョイントのつばにはめます。

【△注意】  
・ブレードホースを上に引っ張って、抜けないことを確認してください。  
・しっかりはまってないと漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。  
この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまでおろします。

5ページ

**4-2 一度はずしたブレードホースを再接続する場合**

・レバーハンドルを全開吐水状態で湯水に振り、湯側・水側それぞれのブレードホース内の水を抜いてください。  
・混合位置でレバーハンドルを開いた状態で、「4 止水栓との接続」に従いブレードホースを接続してください。

【△注意】ブレードホース内の水を抜かないと、正しく施工できなかったり、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

**5-1 シャワー ホース の接続**

① 同梱のホースガイドAをプラグにはめ込みます。  
【お願い】ホースガイドは壁面に固定しないでください。

② (1) ホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、ホースガイドAにはめます。  
(ホースガイドBは、一般地仕様の場合はホースに付いています。寒冷地仕様は同梱しています。)  
(2) [一般地仕様の場合] カプラーが下向きになるように、ホースガイドBを90度回転させます。  
(寒冷地仕様の場合) ホースガイドBを90度回転させ、シャワー ホースを上から通します。

【△注意】  
・(1)ホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、ホースガイドAにはめます。  
・(2)ホースガイドBは、一般地仕様の場合はホースに付いています。寒冷地仕様は同梱しています。  
・(2)カプラーが下向きになるように、ホースガイドBを90度回転させます。  
・(2)ホースガイドBを90度回転させ、シャワー ホースを上から通します。

6ページ

**5-2**

③ (一般地仕様の場合) カプラーとシャワー ホースの接続が緩んでいないか確認してください。  
緩んでいる場合はカプラー手締め後、約30度増し締めしてください。  
(締め付けトルクの目安は約100N・cm)

(寒冷地仕様の場合) 水抜き付きカプラーとシャワー ホースを接続します。  
水抜き付きカプラー手締め後、約30度増し締めしてください。  
(締め付けトルクの目安は約100N・cm)

【△注意】カプラー等の接続の際は、以下の内容に注意してください。  
漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。  
※カプラーの締め付け不足や締め付け過ぎ  
※シャワー ホースのセレーション部以外に工具をかけない  
※シャワー ホースはねじらない

【△注意】  
・シャワー ホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯・給水パイプの間にぶら下げて取り付けてください。  
・シャワー ホースが引き出しにくくなったり、ホース損傷により漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

③ カプラーのキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてから、本体のプラグヘカチッ音がするまで押し込みます。（スライダーがすでに下りている場合もあります。寒冷地仕様の場合はエルボが下向きになっていることを確認します。）  
取り付け後、カプラーを引っ張ってはずれないことを確認します。

【△注意】  
・スライダーが上がっていること  
・カプラーを真下に引っ張ってはずれないこと

**7ページ**

## 取り付け後の点検と清掃

**通水確認**

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部および水栓から水漏れがないことを確認してください。  
確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

**シャワーフェイス・ストレーナ清掃のお願い**

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がつまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

→ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

**止水栓による流量の調整方法**

止水栓による流量の調節方法は下記の方法で行ってください。  
レバーハンドルのクリック手前で適量（湯側・水側それぞれが5L/min程度）になるように止水弁で調節します。水圧が低く、クリック手前で適量が得られない場合は、止水弁を全開にしてください。

**本体貼付シールについて**  
はっ水コーティングが施してあるため、シールがはがれやすくなっています。  
シール貼付部を強くこすると、シールがはがれるおそれがありますのでご注意ください。

## 故障かなと思ったら…

修理を依頼される前にお確かめください。

→ 取扱説明書「故障かなと思ったら…」参照

**[水栓本体内部のメンテナンスをする場合]**

【△注意】  
・修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。  
・水栓本体内部のメンテナンスは、取扱店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。  
・メンテナンスは、専用工具G26(別売)を使用して本体を保持しながら行ってください。  
・シャワーヘッドや吐水口やレバーハンドルを持ってはしますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。

405127-00